

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試において、午後 I の記述式問題は、本番の雰囲気のある問題がそろっていました。そんな中、まったくの白紙の解答はほとんどなく皆さんほぼきっちり解答できています。設問の要求事項や問題文の解答ポイントがとらえにくく解答しづらい記述式の問いが散見される中、今回 60 点以上得点できた人は自信をもってよいと思います。一方、得点が芳しくなかった人は解答の要点や表現を見直し、得点を取れるようにする努力を心がけてください。

午後 I 試験では全 3 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人が相当数いました。これは解答以前の問題です。くれぐれも注意して、指示どおり確実に問題選択することを心がけてください。なお、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られます。また、解答が単語レベルにとどまり、説明不足の解答表現も見られます。特に設問要求に解答表現がきちんと論理的に噛み合っているかに注意しましょう。

解答の影や筋が全く見当たらないような難問奇問の類の問題は、本試験では、まず出題されることはありません。したがって、午後 I の記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問文に手掛かりが見つからないときにはそこで初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問文にある解答制約や手掛かりは必ずあると信じて取り組みましょう。解答制約や手掛かりを適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができます。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思い込みや自分自身の特定の経験に対するこだわりなどによって不正解の解答になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実に言い切れるレベルの表現で解答していくことが重要です。

正解したつもりで不正解になってしまった場合は、設問要求に沿っていない、問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない、問題文の中で客観的に言える範囲を超えている、異常にピンポイントな視点である又は抽象的すぎるという理由が考えられます。書いた内容自体は正しくても、その問いの正解としてふさわしくないの

す。不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるよう心がけてください。

さらに、解答欄に対してボリュームが異常に少ない表現、高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を疑わせる表現、「そこまで限定して言い切れるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心証が悪く、それだけで減点対象となり得ます。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は、詳細なその試験区分の専門知識がなくても、問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分でも、受験されたほとんどの皆さんが、何らかのシステム開発プロジェクト業務に携わっているかと思います。直接の PM 経験がなくても、自身の業務経験と合わせて最後まであきらめず取り組み、必ず合格するという強い粘りをもって臨んでください。

<午後 I >

問1 在庫管理システムの刷新

【採点基準】

【設問1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

【設問3】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し要件は 4 点、理由は 6 点。

【設問4】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

のに対し6点。

【講評】

機械製造業の在庫管理システムの構築に関する問題でした。プロジェクトの環境や状況を俯瞰的にとらえ、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要がありますが、表現が揺れやすく悩ましかったと思われます。選択した人は多かったのですが、解答要点をうまくとらえられずなかなか得点を伸ばせない状況が散見されました。

設問1は、開発スコープの早期確定が解答要点です。この点を明示しないと不正解としています。表現が甘い場合、半分の得点としました。目的についてしっかりとらえて表現しないと得点につながりません。注意しましょう。

設問2は、小型の部品の不良品の個数管理についてフォーカスして解答する必要があります。この設問は少し難しく、特に(2)は解答がなかなか出なかったようです。

設問3は、消耗品の持ち出すルールと在庫管理について言及する必要があります。要点を押さえた表現が求められます。

設問4は正確に表現した解答は少なかったように思います。(1)は要件の重要度、解決課題から優先順位を付けて言及します。(2)は部品管理単位の統一が要点になります。

この問題は、解答表現を絞るのが悩ましかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められません。

問2 リスク管理

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。

[設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。

【講評】

システム開発プロジェクトのリスク管理を題材にした問題でした。本問は、解答数が比較的少なく取り組みやすかったように思われます。問われた観点も典型的なものが多く、解答要点や設問要求の意味をしっかり把握して解答すれば高得点も可能です。ただし、問題文にしたがってその文脈できちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問1(1)は、個別に相談することと事前に説明すること」が解答要点になります。このポイントを押さえて正解としています。(2)は機密情報の漏えいのリスクが要点となります。

設問2(1)は、即答できずスケジュールが遅延することが解答要点です。この点を明示的に解答して正解としています。(2)は課題の表現としてまとめる必要があります。(3)は実際の成果物を確認することを押さえて正解としています。

設問3は、システム統合テストの試験観点不足を適切に指摘して正解としています。

本問においては、表現足らずな解答が目立ちました。適切な解答表現をよく吟味して解答してください。

問3 プロジェクトのコミュニケーションマネジメント

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各3点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点。

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点。

【講評】

コミュニケーションマネジメントに関する問題でした。各問いはよく問われる観点で構成されていて、取り組みやすく、比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考え解答する必要があります。

設問 1(1)は、L 主任については「生産計画業務」、 「要件定義」がキーワードです。K 部長については「費用対効果」がキーワードです。キーワードを押さえ適切に解答表現できていれば正解です。(2)はコミュニケーションの質的な向上と迅速性に言及できて正解としています。

設問 2(1)は、プロジェクトのノウハウを次回以降のプロジェクトに反映させることができる趣旨が必要です。(2)はシステムが停止する品質のmatter、開発費用増加のcost matter、納期遅延となるスケジュールmatterのいずれかを指摘する必要があります。

設問 3(1)は、開発・テストの手戻りに伴うスケジュール遅延が解答ポイントです。(2)は、改訂要望書を裁判管理することと業務要件決定会議で検討することを押さえて正解としました。ていねいに表現するようにしてください。

記述式の解答に際して、設問要求や問題文を踏まえて、解答は「問われていることを客観的に確実にいえるレベルの表現で」まとめることが大切です。極端にピンポイントな解答は避けましょう。くれぐれも自分の単純な感覚や経験で解答しないように注意してください。

また、解答表現としては、専門性が感じられない表現は避けて、よりプロフェッショナルな表現を心がけてください。そうすることによって、採点者の心証がよくなり、得点力を高めることができますし、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3 問から 2 問選択ですので、言い換えると「どの 1 問を捨てるか」ということになります。一見、解答数が少ない問題が楽そうですが、解答数が少ない分、配点が高いので得点率の変動が大きくなります。有利とは言えませんので、安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は取り組んでみないと何とも言えませんが、問題文のテーマやドメイン、設問文の解答のしやすさなどを目安に迅速かつ適切に問題選択を行うようにするとよいでしょう。

以上